

## ならちゅうしん経営研究会 例会報告

### 第 329 回 研究会

**日 時** 平成 30 年 12 月 19 日(水) 午後 4 時 ~ 午後 5 時 30 分

**場 所** 奈良中央信用金庫 3 階 ホール

**講 師** 信金中央金庫 地域・中小企業研究所  
上席主任研究員 角田 匠(つのだ たくみ) 氏

**テーマ** 「内外経済と金融市場の展望」  
～足元の景気は弱含みながらも回復基調は維持する見通し～

開会に先立ちまして、当金庫地域創生推進室の堀内より、来年 1 月よりの通常国会で審議されます平成 30 年度補正・平成 31 年度予算によります経済産業省関連の補助金情報についてご案内をさせていただきました。政府は「ものづくり補助金」を中心に「IT 導入補助金」「持続化補助金」の 3 本柱で中小企業の生産性革命を推進する方針で、総額 1,000 億円超の予算が確保される見通しです。会員の皆様には自社の事業展開にご活用ください。

最初に、上田会長より開講の挨拶があり、年末の恒例となりました経済セミナーを開始しました。例年どおり、信金中央金庫の角田先生を招いて、今回は、「内外経済と金融市場の展望～足元の景気は弱含みながらも回復基調は維持する見通し～」と題して、来年の日本経済の見通しを、国際情勢も含めてお話頂きました。角田先生は日本経済新聞社のシンクタンクである「日本経済研究センター」より、経済予測について優秀な成績を納められたキャスターに贈られる「2017 年度 E S P 優秀フォーキャスター」に選ばれています。

最初に国内経済情勢について、講義を頂きました。日本経済は底堅さを維持するも足元の景気は踊り場局面にあることで、日銀短観「業況判断 D I」の推移をみると大企業の景況感はやや後退しています。しかしながら、底堅い企業マインドを支えに設備投資は引き続き回復基調で、特に大企業の設備投資が堅調に推移しています。次に個人消費をみると、2014 年 4 月の消費税増税後の停滞から緩やかに持ち直しているとのことですが、耐久財や、医療・教育・通信費を中心とした社会構造的必要性に起因したサービスが堅調に推移しているのに対して、食料品や衣料品などの非耐久財は伸び悩んでおり家計の節約姿勢が窺えるとのこと。労働需給のひっ迫を背景に完全失業率がバブル経済期並みの低水準まで下がり、賃金上昇圧力となり賃上げの動きは中小企業にも広がりつつあります。賃上げによる所得環境の改善は個人消費にとっては明るい材料となりますが、人手不足を理由とした倒産が増加し、中小企業の経営環境には易しいものではありません。

続いて世界経済情勢に講義が進みました。IT関連需要の増勢鈍化が輸出減速の主因となり欧州やアジア圏でも景気は減速傾向となっています。ここまで世界経済を牽引してきた米中2大国であります。中国経済は成熟化とともに成長ペースは減速していく傾向にあります。一方米国経済は、賃金が上昇傾向にあること消費者マインドも上昇傾向にあることから、当面は底堅さを維持していくであろうとのことです。世界経済の展望についてIT革新を切り口に説明頂きました。1995年～2005年の10年間はIT普及期、2005年～2015年の10年間はITインフラ整備期、そして2015年以降はIT活用期として、IoTやAI等といった新しい技術の普及が世界経済を支え牽引していくとのことでした。

そして、来年以降の展望について講義は進みました。2019年10月以降消費税率が8%→10%に上がりますが、軽減税率制度や、幼児教育無償化、ポイント還元制度等の増税対策措置により、過去2回の消費税増税に比べて、家計負担は小幅にとどまり来年度内の影響は小さいであろうとのことです。しかし、2020年以降を展望すると、消費税増税の影響、東京オリンピック終了後の反動など不安要素を抱えており、景気後退が懸念されます。

最後に十二支と日経平均株価の話があり、「亥固まる」という格言があり、戌年の平均騰落率は+16.2%、来年は己亥（つちのとい）で己（つち）の年は6連騰中であるとのことです。講演のあとも、参加者より世界の経済動向に対する多くの質問があり、盛況を持ちまして、2018年の経営研究会を締めくくりました。

以上



補助金のご案内 地域創生推進室 堀内



開会ご挨拶 上田会長



ご講演 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 角田上席主任研究員